

総合的な学習の時間学習指導案

指導者 広島市立古田中学校
教諭 中西理恵子

1. 日時 平成24年10月10日(水) 2校時 10:30~11:20
2. 学級 第2学年8組 38名(男子20名, 女子18名)
3. 場所 2年8組教室
4. 単元名 震災に関わる社会問題の解決を考えよう
5. 単元について

(1) 単元観

平成23年3月11日、我が国を襲った東日本大震災は未曾有の被害をもたらし、未だにその復興は道半ばである。地震直後の大津波による犠牲者はもちろん、今なお避難生活を送る被災者のつらさと苦しみは、はかりしれない。我が国にとって緊急の課題であるこの震災からの復興と、火山国・地震国として今後も自然災害が起こりうる我が国の未来の問題について、中学生をはじめとする子どもたちには主体的に自分の意見を言う権利と義務がある。また、世界初の被爆国である日本は、これからの原子力エネルギーについて率先して考えていくべき立場にあり、そのことは、我が国だけでなく世界の問題でもある。中学2年生は自分なりのものの見方、考え方が確立されていく時期でもある。この時期にこの震災で生じた課題に向き合わせることは、自身のものの見方考え方を探り、見つめ直し、一層成長させるのに有効である。

本単元は、震災がわが国にもたらしたさまざまな課題を解決するために、自分たちにできることを考え、提言として発信することで、社会の問題を他人ごとではなく自分自身の課題としてとらえ、その解決に向けて行動しようとする態度を育成できる単元である。

(2) 生徒観

生徒は1学年の6月の道德の授業で、仙台大学の教育実習生から被災体験を聞く機会をもった。続いて、被災地を回って慰霊の巡礼をした地域の方の話聞きスライドで現地の様子を見て、命の尊さと自分たちの生活を見つめ直す学習にも取り組んできた。それらを通して多くの生徒が、震災がもたらした課題について単なる知識にとどまらず、「このままではいけない」「何か自分にもできることがあれば取り組みたい」といった心情を持ち、そのような自分の思いや考えを素直に表現し、学級内で交流することができている。しかしその反面、「日常生活の中で、実際に自分に何ができるのか」ということを深く考えたことのない生徒もいる。

また生徒は、1学年の1月に韓国人留学生と交流する機会をもち、外国の人々にも質問をしたり、意見を交換したりすることができるという体験をしている。本単元ではその体験をさらに高めて、最終的にAPU留学生との討議を経て、自分たちにもできることに実際に取り組ませていく必要がある。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、将来の社会に対して自分ができることに希望を持てる生徒の育成を図りたい。例えば、この学習を通して知り合った被災地の方々と交流を続けようとしたり、わからないことに対して「もっと知りたい、学びたい」という意欲を持ち、身近な生活の中からできることを実際にやってみようとするなどの、具体的に行動できる力をつけさせる。そのためには、探究的な学習の過程で、自ら課題を設定し、提言のための根拠を収集した情報の中から整理・分析し、他者と意見を交換しながら自分の提言を見直したり、修正したりする思考活動を行うことが大切である。さらに今後、自分たちの提言から「行動宣言」を作成して実行させる。この学習全体を通して、たとえ小さなことでひとり一人が自分の意見を発信し行動できるようにし、将来の社会に対して明るい希望を見いださせ、自信をもたせることができるように指導する。

6. 単元の概要

(1) 単元の目標

東日本大震災をめぐる問題を自分の日常生活と関連付けて考えることによって生じた関心や疑問を探究することで、社会の問題を自分自身の課題としてとらえ、その解決に向けて行動しようとする。

(2) 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ア 東日本大震災の中から、自分が着目する課題を見いだす。
- イ 課題に関する状況の事実や関係を把握し、多角的に分析する。
- ウ 相手や目的に応じて、わかりやすく表現する。

【自分自身に関すること】

- エ 目標を明確にし、課題解決に向けて主体的に取り組む態度を身に付ける。
- オ 課題解決に向けて提言を行動にうつそうとする。
- カ 自己の将来について、夢や展望をもち、生き方を考える。

【他者や社会との関わりに関すること】

- キ 異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重する。
- ク お互いの特性を生かし、協同して課題を解決する。
- ケ 討論を通して自分に何ができるか考え、社会貢献しようとする態度を身に付ける。

(3) 単元で学ぶ内容

- ア 震災に関わるさまざまな問題と現状
- イ 震災に関わる社会問題の解決と持続可能な社会創造のための取組内容

7. 単元の評価規準

観点	学習方法	自分自身	他者や社会とのかかわり
単元の評価規準	① 震災という事象を通して課題があることに気づき、解決すべき研究テーマを設定している。 【(2) -ア, (3) -ア】	① 目標を明確にし、課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる。 【(2) -エ, (3) -イ】	① 異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重している 【(2) -キ, (3) -イ】
	② 課題解決のために必要な情報をさまざまな方法の中から収集し、取捨選択し、比較・関連等の手法を選んで分析している。 【(2) -イ, (3) -ア・イ】	② 課題解決のために自分ができることを考え、行動にうつそうとしている。 【(2) -オ, (3) -イ】	② グループ学習を通して、意見を共有・交流し、お互いに考えを深めている。 【(2) -ク, (3) -イ】
	③ 自分の考えを提言としてまとめ、外国の人にわかりやすく発信している。 【(2) -ウ, (3) -イ】	③ 将来の社会に対して、自分ができることを見いだそうとしている。 【(2) -カ, (3) -イ】	③ 討論を通して、身近な生活の中で自分ができることを考え、社会に貢献しようとしている。 【(2) -ケ, (3) -イ】

8. 指導と評価の計画

小単元名 (時数)	主な学習活動	評価規準及び主な評価方法
オリエンテーション (1時間)	・「みんなが幸せになる平和な社会」を目指して、「震災に関わる社会問題」に関する探究学習を通して、社会の問題を自分自身の課題としてとらえ、その解決に向けて行動する態度を身に付けることを知る。	

<p>う (3時間)</p> <p>大震災と社会について考えよ</p>	<p>課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災に関わる様々な問題について知り、何が課題なのか考える。 生徒会活動として被災地に送った応援メッセージの返事を読み、大震災について感じることを、知っていることを学級で出し合い、考える。(いわき市立大野第一小学校) ゲストティーチャーによるパネルディスカッションの話などから大震災に関わる様々な問題について考える。 	<p>自 ① 他 ①</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 マインドマップ
<p>う (2時間)</p> <p>課題を設定しよう</p>	<p>課題の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> 今まで学習したことをもとに自分が解決しなければならないと考える課題(研究テーマ)を設定する。 課題を解決する見通しをできるだけもって、意図的に自分の課題を決める。 	<p>学 ① 他 ①</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ワークシート
<p>(4時間)</p> <p>課題解決のための情報を収集しよう</p>	<p>情報の収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献やインターネット、新聞記事、インタビューなどから情報を収集する。 収集した情報の特徴を生かして、資料を蓄積する。 情報を肯定的・批判的の両面から捉えられるようにする。 	<p>学 ② 他 ②</p>	<ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ポートフォリオ
<p>析 しよう。(2時間)</p> <p>調査結果を整理・分析しよう。</p>	<p>整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報を取捨選択し、種類ごとに分類したり、複数の資料から因果関係を導き出したりして、自分の考えを整理する。 ポートフォリオした情報を整理・整頓する。 提言に向けて、根拠を明確にする。 	<p>学 ② 他 ②</p>	<p>観察・制作物による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ポートフォリオ
<p>間 (本時3/5)</p> <p>のAPU留学生に向けて行動化のための提言しよう</p>	<p>まとめ・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを提言としてまとめる。 ポスターセッションを行い、提言内容や発信方法について検討する。 震災に関わる課題を解決するために、私たちにできること、すべきことは何か、APU留学生に発信し意見交換をする。 交流から学んだことをもとに、自分及びみんなで実践できることを、考え行動にうつすことができるようにする。 	<p>学 ③ 自 ③ 他 ③</p>	<p>観察・制作物による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 行動観察 ポスター

9. 本時の展開

(1) 本時の目標

ポスターセッションを通して、他者の提言の内容と発信方法のよさと課題を指摘するとともに、他者のアドバイスを参考に自分の提言を見直すことができる。

(2) 本時の観点別評価規準

- 発表者の提言と理由、根拠の整合性を指摘することができている。

○ ポスターセッションの資料と提示手順のよさと課題を具体的に指摘することができている。

(3) 準備物

発表に必要な資料、ホワイトボード、ストップウォッチ、ワークシート

(4) 学習展開

	学習活動	◇指導上の留意点 (◆個別の指導の手立て)	評価規準 【評価方法】
導 入	1. 本時のねらいを知り、学習の見通しを持つ。	◇ パネルディスカッションを行い、APU 留学生と交流する自分の提言内容と発信方法の課題を見直すことを知らせる。	
	提言の内容と発信方法を話し合い、アドバイスを参考に自分の提言を見直そう		
展 開	2. ポスターセッションの方法を確認する。 3. 各グループで、ポスターセッションを行う。 ○ 資料をもとに発表する。 ○ 質疑応答する。 ○ 2つの視点で話し合う。 ・根拠がボランティアが必要である理由になっていない。 ・根拠は、グラフ(図)で表すと分かりやすい。 ・文字が多いのでキーワードを貼り付けるとよい。 ○ 評価シートを記入して発表者に手渡す。 ※ グループ全員で繰り返す。 4. 話し合いを参考に、自分の提言を検討し、改善策を考える。	◇ ポスターセッションの方法を説明する。 ・発表者は、提言をホワイトボードに簡潔にまとめ、それをもとに発表する。 ・発表後、グループで質疑応答を行い、次の視点で話し合う。 ① 提言の理由や根拠に矛盾はないか。 ② 資料や発表の手順が工夫されているか。 ・話し合いが済んだら、評価シートに評価を記入し、発表者に手渡す。 ◇ 全体の進行は教師が行い、グループの司会は発表者が行う。 ◇ 質疑応答と話し合いは、時間を設定し自由に行わせる。 ◆ 活発な話し合いができていないグループには、教師が参加し、質問や意見を具体的にする。 ◇ 話し合いを参考に、評価シートを記入させる。 ◇ 2つの視点で検討させる。	・発表者の提言と理由、根拠の整合性を指摘している。 【ワークシート 行動観察】 ・ポスターセッションの資料と提示手順のよさと課題を具体的に指摘している。 【ワークシート 行動観察】
ま と め	5. 改善策を発表する。 4. 学習を振り返り、次時への展望をもつ。	◇ 話し合いで指摘された課題と改善策を数名に発表させる。 ◇ 生徒の学習状況を評価する。 ◇ APU 留学生との意見交流会に向けて提言の見直しを図ることを伝える。	

より良いポスターになるようにみんなで意見を出しあおう

名前 ()

発表した人：()

テーマ：「 」

ていげん 「提言」と こんきよ 「根拠(理由)」の むじゆん つなかりに矛盾がなく、なっとくできたか。

改善したほうが良いところ (「こうした方がいいよ！」)

わかりやすかったところ (「ここは せつとくりよく 説得力があったよ！」)



資料や発表の内容の順番は、工夫されていて、わかりやすかったか。

改善したほうが良いところ (「こうした方がいいよ！」)

わかりやすかったところ (「ここは せつとくりよく 説得力があったよ！」)

